

青山大人(あおやまやまと) 県議会報告かわら版49号



平成 25 年 6 月 20 日発行 青山大人事務所 土浦市乙戸 801-2

電話 029-828-7011 FAX 029-828-7012 メール info@aoyamayamato.net

★フェイスブックでは、日常の活動やプライベートについて公開しております。また、メールにて、ファックス番号を送って頂ければ、毎月一回確実にお手元へ議会報告が届きます。

～青山大人(あおやま やまと)の略歴～

1979年土浦市生まれ。現在34歳。荒川沖小、土浦三中(陸上部主将)、土浦一高、慶応義塾大学経済学部卒。2006年12月に県議会議員初当選(当時、全国最年少の都道府県議会議員)。2010年12月の県議会議員選挙にて2期目当選。2008年1月に第21回日米青年政治指導者交流プログラム日本代表団に選抜される。街の活性化のため映画ロケを地元へ誘致するなど議会以外でも精力的な活動を展開。東日本大震災時は翌日から市内の水道復旧状況等をいち早くブログで情報発信し、一日での閲覧者が最大35000件を記録。また、福島県や宮城県への被災地支援活動が新聞等で大きく掲載される。現在、県議会農林水産委員会委員、予算特別委員会委員、議会運営委員会委員、土浦市消防団第27分団員(土浦市操法大会へ3度出場)。

●茨城県議会6月定例会報告。

18日まで平成25年度第2回県議会が開かれました。審議の末、条例の改正7件、県有財産の処分2件、報告1件を県議会で可決いたしました。条例の改正は地方税法改正に伴うものが主なものであり、報告は、平成24年度の一般会計等の歳入が確定したことなどに伴う予算の補正などがあります。

さて、県議会開会日の冒頭、知事から5月23日に東海村のJ-PARCで発生した放射性物質漏えい事故についての報告がありました。微量とはいえ、排気ファンを作動させ、管理区域外に放射性物質を拡散させてしまったという事業者の不適切な対応はもちろんですが、事業者から県に対する連絡が発生から一日半近くも遅れたことも大きな問題であります。

議会とは別に、事業者の方々が私たちの会派に事件の経過や今後の対応について説明に来られたので、私の方からは、「いくら人体に影響がない程度の微量なものとは言え、県民からすれば、原子力発電の事故も実験施設の事故も放射性物質という点から危険に思うのは当然である。県民の皆様には大きな不安を与えたことの重大さをきちんと認識してほしい」と伝えました。

改めて私たち会派から、①事故の原因を徹底的に究明し、施設の安全対策に万全を期すこと。②放射性物質を安易に管理区域外に放出してしまった経緯等についてしっかりと検証し、安全管理体制の抜本的な改善を図ること。③事故発生時における通報連絡体制の抜本的な見直しを行うこと。

④住民の不安を払しょくするため、情報公開と丁寧な説明に努めること。という4点の緊急要請書をJ-PARCを運営する高エネルギー加速器研究機構と日本原子力研究開発機構に対して提出いたしました。先方からきちんとした回答が来ることを期待しております。

●霞ヶ浦直接浄化施設設置へ。

夏にアオコが大量発生しやすい駅前の土浦港に「りん」を直接浄化する装置を設置し、植物プランクトンの発生抑制等を図る浄化対策を9月20日頃(設置工事は7月20日頃からスタート)から行うことになりました。

この事業は第2期森林湖沼環境税を財源とした霞ヶ浦の水質浄化のための事業です。したがって税の期限である平成29年度まで浄化した水を土浦港奥部へ放流することによる植物プランクトンの発生抑制の状況や浄化効果を検証し、その結果によってはさらに他の霞ヶ浦の閉鎖的な水域への展開を検討していくものです。これまで事あるごとに、議会で提案してきたアオコ対策に一定の効果が上がることを期待します。

●6月28日都内、7月12日土浦駅。

都内港区青山1丁目のアパートから「志」を持って土浦へ戻って丸7年が経ちました。そこで懐かしの都内で初の議会報告講演会を企画してみました。題して『第1回青山大人講演会 in 東京』。日時：6月28日(金)：18時30開場、19時開会(～約1時間)。場所：港区虎ノ門1-1-24第一オカモトヤビル4階会議室。定員：100名程度。参加費無料。また、まもなく始まる参議院議員選挙では、7月12日(金)に土浦駅東口において、藤田幸久参議院議員の応援演説を行います。是非、宜しくお願い申し上げます。